

大窪光教授の退職記念号発刊に寄せて

商学部長 吉 川 勝 広

大窪光先生は愛媛県のご出身で1974年に中央大学理工学部を卒業、慶応義塾大学大学院工学研究科修士課程、慶応義塾大学工学研究科博士課程と進まれ、「Almost sure convergence for stochastic integrals and its applications.」で慶応義塾大学から工学博士の学位を授与されておられます。大学院終了後はコンピュータ教育工学研究所の取締役や短期大学、専門学校での教育を経て、1988年熊本学園大学の前身である熊本商科大学商学部経営学科に助教授として着任され、1991年に教授となりました。その後、1994年には情報教育センター長、1996年に経営学科長、2008年に商学部長と役職を歴任される一方、長年にわたり研究と学生の教育にあたられ2020年3月に定年退職されました。

先生のご専門は「確率論」で2000年代になって「Mixtures of second characteristics of infinitely divisible distributions」、「Mixtures of second characteristics of self-decomposable distributions」、「A Note on Differentiability of Characteristic functions」といった論説にまとめられていきます。

教育に関しては商学部で「経営統計論」、「多変量解析」といった主要科目をご担当され、数理的経営分析手法を学生に教授されてこられました。また経営学科でゼミもご担当され、学生の指導にあたられました。特に先生のゼミは人気が高く、希望者が多かったことを記憶しております。先生のゼミは活発でゼミ生と一緒に学生のデータを取り、それを教育と研究にいかされておられました。先生の研究室はいつも入り口の扉を開けられており、きれいに整理された研究室は常に学生に開かれていました。

私が大窪先生とはじめてお話をさせていただいたのは大学に着任し、入り口の扉が開いていた研究室をのぞきこんだ時でした。「お～吉川くん」から始まり、陸上競技部の顧問をすることになりましたといった話から、先生は学生時代、ラグビーをされておられたことを知ることになります。先生はがっしりとした体格で口ひげをたくわえられておられましたので、一見近寄りがたさを感じるものの、気さくな話しぶりもあって学生に人気があることはすぐに理解できました。また学内でお会いする先生はいつも身なりが整えられ、ハットをかぶって大学に通勤されておられたのが印象的でございました。

大窪先生、長い間、商学部での教授ありがとうございました。退職後は自由な時間も増えるかと思います。なにとぞご健勝であられますことをお祈り申し上げます。